

伊与喜小学校

『未来に生きる力を身に付けた児童の育成』を
めざして

校長 濱田 俊二

◆はじめに

本年度は、2人の新入生を迎え、全児童数15人、教職員6人、完全複式の3学級編成でスタートしました。本校は小規模校であり、保護者や地域の協力なくして学校教育は成り立ちません。まさに、学校、保護者、地域が三位一体となって取り組んでいる学校です。

学校教育目標を『未来に生きる力を身に付けた児童の育成』としました。21世紀世の中の流れはめまぐるしく変化していきます。そんな中、自分の夢や希望に向けて学んでいける子ども達に育ってほしいと思います。

◆校内研修での取組

研究主題を「意欲的に学び、こつこつ努力し、自ら行動できる児童を育てる」と設定しました。

○確かな学力の定着

○自分と仲間を見つめる力
共感力の育成

○自分を守る、命を守る
この3つの柱を大きな軸として校内研修を進めています。

◆確かな学力の定着

①授業改善

『その日の学習はその日のうちに』をモットーに、日々の学習の定着を目指しています。

複式授業においては、自分たちだけで授業を進めていかなければならない時間があります。メニューカードをもとに、自分たちだけでしっかり学習する姿も見られます。算数科では中学年、高学年で「予習」を基にした授業形態も進めています。自分の考えをしつかり持てるよう『書く活動』を多くとり、また、キャリア教育の視点から、今、学んでいることが将来どういうことにつながるかという意識させるような教育を進めています。先生方は、2学年分の準備で大変ですが、がんばっています。

②読書活動

本校は読書活動にも力を入れていきます。スローガンは、「いつでも、どこでも、読書生活」です。毎日の図書館通い、家庭読書、すき



ソファに読書チェアを二つ設置しました。子ども達がゆったりと本を読んでいます。

③放課後学習

子どもたちの1日の日課の中に、放課後学習があります。低学年はランチルームで、高学年は校長室で週3日学習しています。毎日30分の学習ですが、子どもたちは、当たり前のように通ってき

てくれます。教材はPTAの補助により、市販の問題集を使っています。子ども達は、自分のペースでじっくりと学習できています。復習が中心の学習ですが、確実に子ども達の力になっていると思います。毎年4月に行われます標準学力調査では、個人差はあるものの国語、算数共に全学年で平均得点よりも高

く、基礎的な学力がしっかりとついてきていることがわかります。

◆伊与喜家の子どもたち

子どもたちは朝早く集団登校し、毎朝ボランティア活動をしています。本校の特徴として、8時10分より1時間目が始まります。これは、午前中に5時間授業を行うためです。3校時の終わりに、全校での行間運動があります。運動場を走ったり、一輪車をしたり、サーキットをしたりしています。毎日続けることで体力向上を図っています。昼休みや放課後は、児童会を中心に、みんなで遊ぶようにしています。少ない人数ですが、掃除や作業も一生懸命できます。伊与喜家の子どもたちはいつも一緒です。

◆学校―保護者―地域の三位一体での活動

本校の最大の特徴は、学校、保護者、地域の三位一体での活動です。学校だけでは成り立たない行事がたくさんあります。保護者や地域の協力があってこそ、学校教育が成り立っています。子どもたちは、教室での学習と共に、いろいろな行事からも学びます。それ

を支えてくれているのが保護者であり地域の方々です。地域の方々がPTA準会員となってくれていることも心強いです。

田植え、ふれあい草ひき、カレーバッチリ大作戦、稲刈り、盆踊り大会、運動会、収穫祭、6年生を送る会などたくさん活動が保護者、地域の協力で行われています。

今年、地域との交流も増やしてきました。3・4年生が市野々川のお年寄りの方々と交流会を行いました。地域の優しさに触れ、子どもたちの地域を思う心も育ってきます。地域に感謝し、地域を愛する子どもたちに育ててほしいと思います。伊与喜家の子どもたちは地域の宝です。



地域との交流



稲刈り

南郷小学校

「なかよく
かしくくたくましく」

校長 則 ルリ

◆はじめに

校庭の石碑に刻まれている校訓「なかよく かしくくたくましく」、そして「自ら学び、すすんで行動する子どもを育てる」の学校教育目標のもと、知・徳・体・命をバランス良く施し生きていく力を育むために、地道な取り組みを進めています。子ども達は、素朴で明るく、休み時間には、学年関係なく仲良く元気に遊ぶことができます。保護者、地域も、学校に対して温かくとも協力的です。



◆**防災教育と学校安心メールの導入**
本校は、海拔6.6m、海からの直線で670mの場所に位置していることから、防災教育は学校の重点課題と位置付け「防災教育の風土づくり」に向け、毎月の避難訓練、朝マラソン、炊き出し訓練、防災学習・研修、保護者・地域との連携など、実践を積み重ねています。今年度より、緊急連絡手段として「学校安心メール」を導入し、必要に応じて保護者の皆さんにメール送信を行ってまいります。台風などの臨時休校や行事の開催だけでなく、12月の「防災参観日」には、一斉メールを活用した引き渡し訓練を計画しています。

に位置していることから、防災教育は学校の重点課題と位置付け「防災教育の風土づくり」に向け、毎月の避難訓練、朝マラソン、炊き出し訓練、防災学習・研修、保護者・地域との連携など、実践を積み重ねています。今年度より、緊急連絡手段として「学校安心メール」を導入し、必要に応じて保護者の皆さんにメール送信を行ってまいります。台風などの臨時休校や行事の開催だけでなく、12月の「防災参観日」には、一斉メールを活用した引き渡し訓練を計画しています。

◆**学力の定着・向上に向けて**
学力をつけることは、一人一人の子ども達の個性や能力を伸ばし、幅広く豊かな進路、夢の実現や目標の達成など、豊かな未来に向けた大切な営みです。平均点だけでなく、一人一人の結果を分析・把握し、課題解決ができるように、研究主題や研究教科(算数科)は引き続き、全教職員がベクトルを合わせて「チーム南郷」で学力の定着と伸長に取り組んでいます。また、来年度からの小学

校3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語の実施に向けて、町の研究授業校として、参観日なども含め、広く授業を公開し研究を進めています。



外国語活動の授業

◆学校支援地域本部事業

①一次避難場所の変更と防

災倉庫および避難道整備

以前の学校裏山の避難場所は、防災倉庫の設置が望めない事もあり、雨風や夜間・寒さ対策などの危険がありました。そこで、新避難場所として鞭地区の土地の提供や緊急時のハウスの使用許可など、地域の方々のご協力をいただき、現在、新避難場所(ヤモウヂ)への山道舗装整備、そして校舎裏からの避難道の整備工事も進んでいます。



ヤモウヂの防災倉庫

②LED信号機変更・ポール設置・注意喚起文字の表示など

弘野団地下の交差点では、信号機の照度不足などもあり、あわや交通事故と思わ

れる危険な状況が幾度となく見受けられました。10月には、数年来の願いが叶いLED信号機への変更が実現しました。このように、「安心・安全な環境づくり」に向けて、南郷の子どもを育てる会が力強い推進力となってくれています。



◆ふるさとキャリア教育

子どもは、地域の宝であり、「地域を学び」「地域に学ぶ」「地域と学ぶ」という視点から、生活科や総合的な学習の時間を使い、フィールドワーク、聞き取り学習や地域の高齢者・施設利用者などとの交流を通して、地域の方々の願いや生き方にふれ、共に生きることの大切さを学んでいます。

地域の方々とふれあい親しみを深める活動としては、昔遊びを通しての三世代ふれあい参観日、グランドゴルフ、ふれあいサロン訪問などを行っています。

保護者、地域の方々は、引き続き、登校時の見守り活動(街頭指導)、そして、教育ボランティアとして、毎週金曜日朝の読み聞かせ、

夏休み夜間の太刀踊りの指導、米作り学習、大根交流、音楽祭に向けてのピアノ指導、手話学習などで学校に関わってくださっています。

重ねて、運動会や校内スカッシュ大会、愛校作業なども地域の方々の参加や協力を得て、子ども達はもちろん、学校教育にとって大きな支えとなっています。

夏・秋祭りなどには児童の参加が増え、地域の伝統行事の伝承ができています。これからも、地域の方々に、子どもたちのことを知ってもらい、子どもたちも地域の方々を知っているという関係をつくりながら、「地域を誇りに思い、地域を愛する子ども」を育てていきたいと思っています。

そのためにも、学校の取組が一過性に終わることなく、これからも地域に開かれた教育のあり方を探っていくことが重要だと考えています。



運動会後、秋祭りで披露